

事務事業名		老人医療費適正化対策事業			☐ 実施計画登載事業 ☐ 合併建設計画登載事業							
政策体系	政策名	04 安心が確保されたまちづくりの推進			事業期間 ☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 57 年度～) ☐ 期間限定複数年度 (計画期間) 年度～年度 ↓ 全体計画欄の総投入量を記入		予算科目					
	施策名	18 社会保障の充実					会計	款	項	目	事業	
	基本事業名	02 老人保健医療の充実										
根拠法令		老人保健医療費適正化推進事業実施要綱					01	03	01	05	30	
所 属	部課名	生活福祉部国保年金課										
	係 名	医療給付	電話	0192-27-3111								
			内線	148								
事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) 保険医療機関等からの診療報酬明細書の請求内容等を点検審査し、適切でない場合は差し戻しを行う。 具体的な業務は次のとおり ・専門業者に診療報酬明細書の点検審査業務を委託する。・多受診及び重複受診者を保健師が訪問し、受診方法等を指導する。 事業費は診療報酬明細書点検業務の委託料に支出される。 平成20年4月から後期高齢者医療制度に移行したため、老人保健制度で行われた医療に関する診療報酬明細書が対象となる。												
全体計画 (期間限定複数年度のみ)												
総投入量 (千円) 事業費 財源内訳 人件費					国庫支出金							
					都道府県支出金							
					地方債							
					その他							
					一般財源							
					事業費計 (A)				0			
					正規職員従事人数							
延べ業務時間												
人件費計 (B)				0								
トータルコスト(A) + (B)				0								

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標									
手段(主な活動) 前年度実績(前年度に行った主な活動) 診療報酬明細書の件数が少ないため、専門業者に委託せず職員が審査点検を行う。 今年度計画(今年度に計画している主な活動) 前年度と同様の事業			活動指標(事務事業の活動量を表す指標)						
			名称						単位
			ア	レセプト点検委託料					千円
			イ	医療費通知回数(年間)					回
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 ・診療報酬請求明細書 ・老人保健医療受給者(75歳以上の者、65歳以上75歳未満で一定の障害があると認められた者)			対象指標(対象の大きさを表す指標)						
			名称						単位
			カ	審査レセプト件数					件
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 医療機関から、医療費が適正に請求される。 受給者が多受診、重複受診を控える。			成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)						
			名称						単位
結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか) 医療費の伸びが抑制され、老人保健制度の円滑、適正な運営が図られる。			サ	第三者行為による医療費返納額					千円
			シ						
			ス						

(2) 総事業費・指標等の推移									
			年度	17年度(実績)	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)
			単位						
投入量	事業費	国庫支出金	千円	2,048	2,417	1,565	0	0	0
		都道府県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		一般財源	千円	3,650	4,011	3,850	2,697	0	0
		事業費計(A)	千円	5,698	6,428	5,415	2,697	0	0
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1
		延べ業務時間	時間	50	150	100	80	50	50
		人件費計(B)	千円	200	600	400	320	200	200
		トータルコスト(A)+(B)		千円	5,898	7,028	5,815	3,017	200
活動指標	ア	千円	5,433	4,918	4,697	2,519	0	0	
	イ	回	1	1	3	0	0	0	
	ウ								
対象指標	カ	件	182,066	175,256	175,000	36,930	100	0	
	キ	人	6,844	6,498	6,219	0	0	0	
	ク								
成果指標	サ	千円	2,915	7,100	1,524	4,776	3,075	0	
	シ								
	ス								

事務事業ID	0121	事務事業名	老人医療費適正化対策事業
--------	------	-------	--------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

国からの通知による。(昭和61年6月11日厚生省発健医第59号「老人医療給付費等の国庫負担(補助について)」)

事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

平成14年8月2日改正された老人保健法第46条の2において、厚生労働大臣は老人医療費の伸びを適正化するための指針を定めることとされた。平成15年9月11日付け厚生労働大臣告示「老人医療費の伸びを適正化するための指針」により、事業を実施。

平成17年度より、国庫補助要件に受給者向け医療費通知の送付が義務づけられ、平成18年度には基盤整備として、年医療制度改革に伴う電算システム構築費用も追加された。

平成20年4月に後期高齢者医療制度が創設されたため、老人医療費適正化補助金は平成19年度をもって終了となった。

この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

特になし。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている [理由] 医療費の適正化を図ることは老人医療費の不正請求等を防ぎ、安心して適正な医療を受けられることにつながる。
	公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である [理由] 老人保健事業の財源は市も負担しており、市がこの事業を実施し、医療費の伸びの抑制を図ることは妥当である。
	対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である [理由] 対象及び意図は、老人保健法に基づくものであり妥当である。
有効性 評価	成果の向上余地	☐ 向上余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない [理由] 平成21年度からは診療報酬明細書の点検を専門業者に委託せずに職員が行うことから、成果の向上は困難である。
	廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 [その内容] 医療機関への不当請求抑止力等がなくなり、医療費増につながる。
	類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない [理由] 平成21年度から国保は電子レセプトとなるため、連携して実施することはできない。 ☒ 他に手段がない [理由]
効率性 評価	事業費の削減余地	☒ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない [理由] 平成21年度からは診療報酬明細書の点検を専門業者に委託せずに職員が行うことから、委託に係る費用が不要となる。
	人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 平成21年度からは診療報酬明細書の点検を専門業者に委託せずに職員が行うことから、人件費の削減は困難である。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である [理由] 全レセプトを点検しているために公平である。

事務事業ID	0121	事務事業名	老人医療費適正化対策事業
--------	------	-------	--------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)		(2) 全体総括(振り返り、反省点) 後期高齢者医療の創設により、老人保健医療に係る診療報酬明細書の件数は減少しているが、医療費の適正化を図るため請求内容の点検審査は重要であり、市町村の費用負担がある平成22年度まで実施する必要がある。																						
<table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>有効性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>効率性</td><td>☐ 適切</td><td>☒ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>公平性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり												
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																						
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 診療報酬明細書の件数が少ないことから、点検審査を専門業者に委託せず職員が行う。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>●</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持	●		×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持	●		×																				
	低下		×	×																				
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 職員に診療報酬明細書の点検審査の経験がないので、国保で委託している専門業者の協力を得て適切な点検業務が行われるよう努める。																								

(職 名) 原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	国保年金課長
-------	--------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(2) 2次評価者としての評価結果		(3) 評価結果の根拠と理由 適切な事務執行がなされている。																						
<table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>有効性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>効率性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>公平性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり														
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																								
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																								
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																								
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																								
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☒ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 状況をみながら事業廃止とする。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>						コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			×	低下		×	×
		コスト																								
		削減	維持	増加																						
成果	向上																									
	維持			×																						
	低下		×	×																						

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
